# 特別座談会・全産廃連青年部協議会中部ブロック

## 次世代業界人のネットワーク構築を 地域特性を踏まえた交流推進

産廃業界の次代を担うリーダーたちが集う全産廃連青年部協議会。近年では「CO2マイナスプロジェクト」「CSR2プロジェクト」等の取り組みを展開し、活動を通じた交流も進んでいる。なかでもひと際異彩を放つのが、ここ中部ブロックだ。この7月に協議会新会長へと選出された加山順一郎氏、ブロック長の浅井明利氏を中心に積極的に連携。独自の存在感を示している。今回の座談会では、同ブロックのメンバー等11名が参集。業界の現状や課題、地域の特性を踏まえた状況の変化等について意見を交わした。(参加者は左欄)

前列左から海野氏、青島氏、浅井氏、加山氏、光友氏、小塚氏、
後列左から永井氏、草野氏、野瀬氏、石垣氏

### 座談会参加者紹介

全産連青年部協議会会長
**加山　順一郎**(加山興業/愛知県豊川市/代表取締役)
<事業内容>一般廃棄物・産業廃棄物・特別管理産業廃棄物収集運搬業、産業廃棄物・特別管理産業廃棄物処分業、解体工事業

中部ブロック長
**浅井　明利**(浅井商店/愛知県名古屋市/代表取締役)
<事業内容>事業系一般廃棄物・産業廃棄物・特別管理廃棄物収集運搬業、中間処理業

副ブロック長
**小塚　将樹**(小塚メタル/岐阜県瑞穂市/専務取締役)
<事業内容>非鉄金属・特殊金属・鉄くず、卸売業、産業廃棄物収集運搬業、中間処理業、農業

副ブロック長
**青島　邦信**(コーシンサービス/静岡県静岡市/常務取締役)
<事業内容>一般廃棄物・産業廃棄物処理業、分析・測定、各種洗浄・清掃工事、土木・建築工事業、BDF精製事業

副ブロック長
**光友　裕昭**(吉野興産/三重県津市/常務取締役)
<事業内容>産業廃棄物・特別管理産業廃棄物収集運搬業、産業廃棄物処分業、解体工事業

幹事
**永井　弘児**(永一産商/愛知県名古屋市/専務取締役)
<事業内容>産業廃棄物収集運搬業、産業廃棄物処分業、解体工事業(工事から廃棄物処理までの一貫体制)、清掃工事(タンク・ピット・側溝各種プラント)・リサイクル業

幹事
**草野　進太郎**(マルダイ/岐阜県揖斐郡/取締役)
<事業内容>一般廃棄物・産業廃棄物処分業、中間処理業(木くず)、産業廃棄物収集運搬業

幹事
**海野　智也**(イーシーセンター/静岡県富士市/取締役)
<事業内容>解体工事業、産業廃棄物処理業、産業廃棄物収集運搬業、砕石製造・販売

幹事
**石垣　和哉**(共同/三重県四日市市/専務取締役)
<事業内容>コンビナートプラント関連工事全般・製鋼原料、一般廃棄物・産業廃棄物収集運搬業、一般労働者派遣事業、有料職業紹介事業、福祉事業、保育事業、ベビーシッター事業

幹事
**野瀬　長勢**(マルゼン/三重県津市/代表取締役)
<事業内容>一般廃棄物・産業廃棄物・特別管理産業廃棄物収集運搬業

愛知県産業廃棄物協会 事務局長
**大家　健雄**

### ブロック内でも多い地域差

**――青年部協議会の活動は、親会をも巻き込んだ大きな広がりを見せていますね。**

**加山**　私たち若い世代が率先してステップアップすることが、業界全体の資質向上につながると考えています。

今回の会長就任にあたって、私は「CSR2プロジェクト」の"継承と進化"をテーマにすることで、業界が静脈ではなく基幹産業だ」と自信を持って言えるよう、そうした社会認知を進めたいと考えてのことです。

**――地域による事業環境の差はどんなところに感じますか?**

**光友**　例えばコンプライアンスの部分ですね。三重県では14001や優良業者認定の意義を行政や排出事業者がよく認知している状況にあります。

**――特色を持ち寄って付加価値を生む**

**――モノとして問題になっている品目はありますか?**

**永井**　一番問題となっているのは、コンクリートがらやふるい下の処理先がないということ。そもそもの処理基準が明確でないので、再生製品として生かすべきか廃棄物として処分すべきか分からない状況です。売れなければ廃棄物と解釈次第でどちらにも取れるため保管もままならず、非常に悩ましいところです。

**草野**　木質チップでも同じ状況があります。燃料として出していたものが製紙・繊維といったユーザーの不振でモノが余り出している一方、溜めることができないので無理に吐き出す状況にあります。

**――しかし、モノ余りとなると価格競争に陥りやすくなるという問題もありますね。**

**光友**　とは言っても、安すぎれば不審に思う排出事業者は多いですよ。最近の環境意識の高まりで、排出企業における環境部門の地位も向上していますし、その分、産廃業界に理解のある担当者も増えています。

**野瀬**　事業系に関しては公共入札等で単価が明らかですし、結果的に値下げ競争になりがちです。一方で、一般企業の場合は単価は決して高くはないですが、一度契約したところとは長くお付き合いしていただけますから、個々の利益は小さくとも、顧客を数多く確保してしっかりした提案をしていくことで、トータルでプラスと思うんです。そうして得た成果を各県から全国へとボトムアップしていくことが大切で、政による優遇措置もあるとは思います。

**――CSR活動を進めるにあたって、排出事業者にはどんなことを期待していますか?**

**大家**　CSR活動を進めることで、業界が静脈ではなく基幹産業なんだということを、社会に認知してほしいという思いもあります。愛知県産廃協会でも環境教育への取り組みを地道に続けていますが、「街がきれいなのは業界があるからなんだ」と自信を持って言える、そうした社会認知を進めたいと考えてのことです。

**――地域による事業環境の差はどんなところに感じますか?**

**青島**　静岡ではむしろ、ISOも優良認定も持っていて当たり前という感じで、他社との差別化が難しくなってきたとも言えます。

**海野**　でも、それは言い換えれば業界が成熟してきた結果なんですよね。そのなかでさらに差別化を図り、排出側から感謝されるような取り組みを実現することが大切でしょう。

**青島**　その意味で、近注目されているのは労働安全衛生です。廃棄物処理業は建設業の次に労働災害が多い業界ですから、体制を確立していかなければなりません。国内には統一的な基準はありませんが、国際規格のOHSAS等をもとに取り組むことはできます。

**浅井**　その辺りは中部ブロックとしてやっていきたい部分でもありますね。

**――廃棄物と解釈次第でどちらにも取れるため保管もままならず、非常に悩ましいところです。**

**海野**　その辺りも地域状況によって差がある部分ですね。静岡はどちらかと言えば楽観的で、受け入れるユーザーはありますし、足りなくて困るという感触さえあります。時代や場所によって求められるものが変わるのは当然のことですから、例えば10年後に必要なものを作ろうという意識が必要かもしれません。

**――最近は木質バイオマス発電が話題になっていますが、まだ実需要が増えたわけではありません。岐阜、三重、愛知は厳しい環境です。**

**小塚**　スクラップに関しては、価格は国際的な指標がありますし、長期的に見れば必ず売れるものですから、そういった意味での競争はありません。最近では円安が進み、海外処理でのコストメリットも薄くなってきたので、仕事が国内に帰ってきている状況も出てきています。小型家電や雑品ではその動きが特に顕著です。

**――それぞれの分野で状況がまったく異なっているんですね。**

**浅井**　確かに、自分の専門分野の少し隣のことでも、知らない部分がありますし、だからこそ青年部協議会はネットワークとして非常に良い存在だとも思いました。ジャンルのちがい、地域性のちがいを踏まえ、お互いの情報を交換するだけでなく、事業のうえでもそれぞれの得意を持ち寄ったワンストップ処理を顧客に提供することもできます。そういったメリットを生む良いネットワークに協議会を育てていきたいですね。

**加山**　来年11月には全産廃連の全国大会が名古屋で行われ、中部ブロックとして各地域の会員を迎えることになります。中部ブロックらしさを全国に知っていただけるよう、ブロックの皆さんと一緒に作り上げていきたいと考えています。是非、協力をいただければ幸いです。

**――本日はありがとうございました。**(於・愛知県産業廃棄物協会)

平成25年8月19日
週刊循環経済新聞